

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	いじめの根絶 (生徒課・管理職)	・いじめの件数0件 ・巡回時の生徒指導0件 ・ネットパトロールからの指摘0件 ・学校は安心して生活する事ができる場所だと感じている生徒・教員100%	・0件 ・0件 ・0件 ・生徒 97%・教員 100%	A	いじめや巡回中の問題行動はなく、生徒も安心して学校生活を送れている事がアンケート結果から分かった。また、このことは、生徒の出席状況の改善にもつながっていると考えられる。 次年度も、生徒にとって、安心・安全な学校づくりを続けていきたい。
	登下校及び学校生活中における事故防止 (全教員)	・校内での事故0件 ・登下校時の交通事故0件	・1件（体育授業中） ・0件	B	体育のバレーボール中に手術が必要な骨折が1件あった。体育をチームティーチングで行っていたことや職員間の連携により適切な対応ができた。
	防災対策の充実 (生徒課・管理職)	・「防災訓練は大切である。」と答える生徒 90%以上 ・「家庭で非常時の準備をしている。」と答える生徒 70%以上 ・地域の防災訓練参加率 50%以上	・100%以上 ・生徒 83%以上 ・参加率 33%	B	防災訓練の大切さは実感しており、防災についての準備は昨年度より向上していた。しかし、地域防災訓練の参加率については、満足のいく結果ではなかった。 次年度は、避難所運営ゲームなどを取り入れ、防災意識の向上に努めたい。
イ	挨拶と丁寧な言葉遣いができる (全教員)	・「自ら挨拶することができる」と答える生徒 90%以上 ・「誰にでも丁寧な言葉遣いができる」と答える生徒90%以上	・100% ・100%	A	アンケート結果からも挨拶や言葉遣いについて、取り組んでいる事がわかる。これも日ごろからの先生方の声掛けと丁寧な対応によるものである。次年度もこの取り組みを継続していきたい。
	ソーシャルスキルの育成 (全教員)	・「ソーシャルスキルに関する項目について、身についた」と答える生徒 80%以上	・96%	A	本年度取り組んだSEL (SocialEmotionalLearning) の効果もあり、ほぼ全ての生徒が肯定的な回答をしていた。ただ、全く身につけていないと実感している生徒も若干いるため、次年度も取組を継続していきたい。
イ	自己肯定感を高める。自己の成長を実感できる。 (全教員)	・自分の強み(良さ)を3つ以上答えられる生徒 70%以上 ・「自分は成長した。」と答える生徒 80%以上 ・「生徒ができるようになった事に注目して声掛けができた。」と答える教員 80%以上	・70% ・96% ・100%	A	自分の強みを3つ以上答えられた生徒については、目標値をクリアする事はできなかったが、昨年度から自分は成長したと感じている生徒も 96%であった。この結果も、全ての教員が生徒に対して肯定的な声掛けを行っている賜物だと考えられる。次年度以降も継続して支援を行い、全ての生徒が自分は成長したと実感できるように継続して支援を行っていきたい。

様式第3号

	欠席、遅刻を減らす。 (全教員)	・毎月の出席率 95%以上 ・毎日の遅刻平均3人以内 ・寝坊による遅刻、月間10件以内	・95% ・遅刻平均0.7人 ・月4件	A	皆勤者・精勤者は全体の40%であった。昨年度は特定の生徒が欠席や遅刻を続ける傾向があったが、本年度は、そのような状況はなかった。義務教育段階では半数の生徒が長期欠席であったが、高校入学を機に、毎日学校に登校するという意識とそれを支える環境が整えられていると感じる。
	教職員間及び教員と家庭との連携充実 (全教員)	・「情報共有ができた。」と答える教職員100% ・「必要な際に、生徒及び家庭と情報共有できた。」と答える教員90%以上 ・行事等の記事を1週間以内にSNSに投稿する。	・100% ・100% ・2週間に3件の頻度で投稿することができた。	A	教員間及び教員と家庭との連携は必要十分に行っていた。 SNSと学校ホームページを連携した情報発信についても目標通り行う事が出来た。一日体験入学の際の出席者からも、本校の定時制は情報発信がされているので、様子が分かりやすいといった感想を得られた。 次年度以降も継続して情報発信をしたい。
	法律及び校内ルールの遵守の徹底 (生徒課)	・生徒指導0件	・0件	A	本年度生徒指導は無かった。問題行動が起きる前の発達支持的生徒指導や課題予防的生徒指導が功を奏したと言える。次年度以降も継続して指導を行っていききたい。
	多様性に対応した個別最適な学びの実践 (全教員)	・「静岡市発達障害者支援センター「きらり」との連携が有用だった。」と答える教員100% ・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員100% ・「中学校時より学力が向上した。」と答える1年生100% ・「TTにより、理解が深まった」と答える生徒100% ・「授業内業が全く理解できない。」と答える生徒0%	・100% ・100% ・92% ・96% ・0%	A	・生徒の現状に合わせた授業実践が行えた結果、授業が全く理解できないと回答した生徒は誰もいなかった。また、ほとんどの1年生が中学校の時と比べて学力が向上したことを実感していた。 生徒にとって分かる授業を行うことだけでなく、「きらり」と連携することによって、学習をしていく上での適切な環境づくりに取り組んでいることが、学力の向上につながっていると感じる。 この取り組みは、次年度以降も継続していきたい。
エ	校務や授業への一人一台端末や学習系クラウドサービスの活用	・「校務や授業で一人一台端末を活用することができた。」と答える教員100% ・研修などで学んだことを業務や授業に取り入れた教員100%	・100% ・100%	A	昨年度から一人一台のタブレットを貸与することができた。それらを利用して、毎日の健康観察や授業の資料の配布、小テストの実施、英作文の作成などを行うことができた。本年度は、全体研修を実施しなかったが、昨年度以上の端末の活用がみられたことから、一人一台端末を使用することが根付き始めていると考え

様式第3号

		・「一人一台端末を活用することにより、学力が向上した。」と答える生徒 80%以上	・100%		られる。
	観点別学習状況評価を基にした授業改善の実践（全教員）	・「学習評価を基に授業改善を行う事ができた。」と答える教員 100% ・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員 100%	・100% ・100%	A	観点別学習評価を基に学習集団にとって適切な課題の設定や授業実践を行う事ができた。その結果、授業を全く理解できない生徒は一人もいなかった。
オ	スクールカウンセラー（SC）と連携強化（生徒課・管理職）	・「SCを利用したことにより状況が改善した。」と答える生徒 80%以上 ・「SCを利用したことにより生徒の様子が改善した。」と答える教職員 80%以上	・100% ・87%	A	定期的にスクールカウンセラーと面談をする環境がある事は生徒のメンタルサポートの助けになっている事がアンケート結果から見て取れた。スクールカウンセラーを活用した生徒は10人であった。次年度以降もこの取り組みを継続したい。
カ	キャリア教育の充実（教務課）	・「講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった。」と答える生徒 80%以上 ・「自分の希望する進路が実現できた。」と答える卒業生 100% ・「アルバイト等に就いている。」と答える2年生以上の生徒 80%以上	・97% ・78%	B	講演会を開くことは生徒がキャリア形成について考える良い機会になっており、この取り組みは次年度以降も継続・発展させていきたい。また、2年生以降のアルバイト従事率も78%であり、働きながら学ぶことが定着しはじめている。 次年度以降も継続して取り組んでいきたい。
	休暇取得の推進（全教員）	・夏季休暇取得率 100% ・年休取得率 60%以上	・100% ・80%	A	業務の効率化が図られた結果、夏季休業取得率、年休取得率ともに目標値をクリアすることができた。
キ	退勤時間の厳守（全教員）	・月間の超過勤務時間平均 20 時間未満	平均 11 時間 50 分	A	職員室完全退出の時刻は概ね守られていた。そのため、月間の超過勤務時間の平均値の目標値をクリアすることができた。
	業務の削減及び見直しの推進（全教員）	・会議資料のペーパーレス化 100% ・学校経営計画を踏まえた各分掌の業務、1 つ以上削減 ・学校経営計画を踏まえた各教職員の業務、1 つ以上削減	・100% ・1 つ以上削減 ・1 つ以上削減	A	GoogleWorkSpace アプリの活用や Handy を利用した求人票の管理など ICT 活用による業務の効率化や、教員間の連携による負担感の軽減を行うことができた。

令和6年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ）

学校番号	31	学校名	静岡県立清水東高等学校 定時制の課程	記載者	井島 秀樹
------	----	-----	-----------------------	-----	-------

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	いじめの根絶	・いじめの件数0件 ・巡回時の生徒指導0件 ・ネットパトロールからの指摘0件 ・学校は安心して生活する事ができる場所だと感じている生徒・教員100%	A	A	学校が安全安心な場所となる取り組みを今後とも是非継続して欲しい。
イ	挨拶と丁寧な言葉遣いができる	・「自ら挨拶することができる」と答える生徒90%以上 ・「誰にでも丁寧な言葉遣いができる」と答える生徒90%以上	A	A	「自ら挨拶」は対人関係の見本であるので、今後も継続して欲しい。
	ソーシャルスキルの育成	・「ソーシャルスキルに関する項目について、身についた」と答える生徒80%以上	A	A	ソーシャルスキルの向上は大切である。今後も個別の対応をお願いしたい。
	自己肯定感を高める	・自分の強み(良さ)を3つ以上答えられる生徒70%以上 ・「自分は成長した。」と答える生徒80%以上 ・「生徒ができるようになった事に注目して声掛けができた。」と答える教員80%以上	A	A	生徒の成長のタイミングを逃さず、褒めることで良い効果が得られていると感じる。 認めてもらえることによる効果は素晴らしいと思う。教員のスキルアップによる成果だと感じる。
	欠席、遅刻を減らす	・毎月の出席率95%以上 ・毎日の遅刻平均3人以内 ・寝坊による遅刻、月間10件以内	A	A	生徒たちの登校への意欲が表れていて大変素晴らしい。
ウ	多様性に対応した個別最適な学びの実践	・「静岡市発達障害者支援センター「きらり」との連携が有用だった。」と答える教員100% ・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員100% ・「中学校時より学力が向上した。」と答える1年生100% ・「TTにより、理解が深まった」と答える生徒100% ・「授業内業が全く理解できない。」と答える生徒0%	A	A	個々に応じた分かる授業の環境づくりがさらに進んでいて、大変良い取り組みがなされていると感じる。

様式第5号

エ	校務や授業への一人一台端末や学習系クラウドサービスの活用	・「校務や授業で一人一台端末を活用することができた。」と答える教員100% ・研修などで学んだことを業務や授業に取り入れた教員100% ・「一人一台端末を活用することにより、学力が向上した。」と答える生徒80%以上	A	A	ICTの活用を今後も進めていって欲しい。 一人一台端末の使用による学習だけでなく、種々のケアがされている様で大変良い。
エ	観点別学習状況評価を基にした授業改善の実践(全教員)	・「学習評価を基に授業改善を行う事ができた。」と答える教員100% ・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員100%	A	A	授業の進行効率が悪い方法であっても、最も生徒に必要とされているもので、教員の熱意と努力が無ければ成し得ない。 個に応じた授業の実践が着実に進められていて素晴らしい。
オ	スクールカウンセラー(SC)と連携強化	・「SCを利用したことにより状況が改善した。」と答える生徒80%以上 ・「SCを利用したことにより生徒の様子が改善した。」と答える教職員80%以上	A	A	悩みのない生徒はいない。SCと連携していることは良い取り組みだと思う。
カ	キャリア教育の充実	・「講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった。」と答える生徒80%以上 ・「自分の希望する進路が実現できた。」と答える卒業生100% ・「アルバイト等に従事している。」と答える2年生以上の生徒80%以上	B	B	生徒の進路への対応は大変だと思うが、今後も一人一人に応じた丁寧な対応をお願いしたい。
キ	退勤時間の厳守	・月間の超過勤務時間平均20時間未満	A	A	効率の良い業務をされている。 意識した取組を今後も継続していって欲しい。